

報告

LIFE2025に参加して

小林 博光

総合せき損センター 医用工学研究室

1. はじめに

LIFE2025とは、日本生活支援工学会大会、日本機械学会福祉工学シンポジウム、ライフサポート学会大会の3つの学術大会を合同で行う連合大会です。2025年の8月27日から29日までの3日間、神奈川県の厚木市にある神奈川工科大学にて行われ、発表・参加したので報告します。

2. リハ工学カンファレンスとの違い**2.1 発表資格**

発表者の資格は、前述の3学会の会員だけでなく、協賛団体の会員も含むそうです。リハ工学協会も協賛団体の1つですので発表できます。オーガナイズドセッション（特別企画の発表枠）は、オーガナイザー（企画者）が依頼した方であれば、会員資格を問わず発表できるようです。

2.2 服装

一般的な学術会議ですので、やはりビジネスフォーマルな服装で参加する方が殆どです。とはいってもクールビズが公式に推奨されていますし、酷暑の時期に開催されたので、ビジネスシャツにノーネクタイの方も多く見られました。もちろん、参加時の服装について規定や推奨の記述はどこにもありませんが、いわゆるビジネスフォーマルな服装が標準となるようですね。さすがにリハ工学カンファレンスのように麻シャツにショートパンツで参加される方は皆無でした。

2.3 発表者

学生さんがとても多い印象でした。3割程度は学

生又は大学院生だったように思えます。海外留学生と思わしき学生さんも多かったです。一生懸命日本語で発表していました。若手プレゼンテーション表彰や、優秀論文発表者への奨励賞（賞金あり！）、学生のみを対象とした学生交流会の企画など、若手研究者を取り込む工夫が見られました。

障害当事者の発表もありました。一演題程度あつたようです。当事者の参加や発表の多さはリハ工学カンファレンスの誇るべき点ですね。

2.4 発表内容

工学系学術会議ですので、かなり専門的な用語や数式、表やグラフが発表論文集にもプレゼンテーションにも多数登場します。物理学や統計解析学、医学や生物学など、生命分野に関わる工学系学術学会の雰囲気は圧巻です。筆者も分からることだらけでその都度タブレット端末で調べたり気になるワードをメモしたりしていました。リハ工学カンファレンスは福祉や日常生活にフォーカスした演題発表が多いですが、本会は生命支援や治療・訓練機器、バイオメカニクスや生体計測など、医療の現場に関わる演題が多数見られました。

3. 異文化を楽しむ

専門的な工学分野の学術会議ですので、数式やデータで根拠やエビデンスを示す手法が大多数ですから、説得力は大きいと感じました。一方でリハ工学カンファレンスは、「困ったから作ってみた！」「とにかくやってみた！」という即時性に優れた対応の発表も少なくない印象です。それぞれ独自の趣や熱量があって興味深く感じました。是非、異なる学会に参加しそれぞれの特徴を体験してみてください。

総合せき損センター 医用工学研究室

E-mail: kobaya4@sekisonh.johas.go.jp